

岡山醫學會雜誌第52年第8號 (第607號)

昭和15年8月31日發行

OKAYAMA-IGAKKAI-ZASSHI

Jg. 52. Nr. 8. August 1940.

109.

621.111.7-612.115

血 小 板 ノ 研 究

(第 2 報)

Esophylaxin 及 ビ Disseptal ニヨル血小板竝ニ
血液凝固ニ及ボス影響ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室(主任根岸教授)

助手 醫學士 江 原 敏 夫

[昭和14年5月4日受稿]

第1章 緒 言

血液凝固ノ機轉ニ關スル學說ニハ諸説アリテ現今尙ホ一致セザルモ、血小板ガ血液凝固ニ缺ク可カラザル1要素ナル事ハ Bizzozero 以來既定ノ事實トセラシ。又血小板ガ血液凝固機轉ニ於テ白血球ト共ニ凝固發現ノ原動力トモ稱スベキ Thrombokinaase ヲ放出スルモノナルハ一般周知ノ所ナリ。然ラベ血小板増加ガ血液凝固ヲ促進セシメ血小板減少ガ血液凝固ヲ遲延セシムベシトハ當然考慮サルベキ事項ナリ。今血小板數ト血液凝固性トノ關係ヲ按ズルニ既ニ幾多ノ學者ニヨリ検討セラレ血小板増加ト血液凝固促進トハ互ニ相平行ストナス者ニ Caccuri, Krueger and Schultz, 澤田, 山本等アリ。反對ニ兩者間ニ何等一定ノ關係ヲ見出サズトナス者ニ Stephan, 小野, 石川,

松山, 大塚, 坂井等アリ。斯クノ如ク血小板數ト血液凝固トノ關係ニ就テハ其ノ云フ所區々ナリト雖モ血小板ガ血液凝固ノ原動力タルベキ Thrombokinaase ヲ放出スルモノナル點ヨリセバ血小板増加ハ血液凝固ヲ促進セシムベキ一要素タリ得ベキナリ。

而シテ昭和10年3月片岡氏ハ臨牀的觀察竝ニ實驗的研究ニ立脚シ皮膚ヲ以テ一種ノ内分泌臟器ナリト看做シ皮膚ニ於テ產生セラレテ所謂 Esophylaxie 作用ヲ營ムベキ特殊物質即チ Hauthormon ノ純粹捕捉ニ務メ遂ニ家兔耳殼ヲ灌流シ以テ皮膚ニ於テ生成セラルル特殊物質ヲ分離シ之ヲ „Esophylaxin“ ト命名セリ。而シテ皮膚ノ營ム Esophylaxie 作用ハ諸種複雑ナル生物學的作用ニシテ, Esophylaxin ガ果シテ Hauthormon ヲ含

有スルモノトセバ之ガ有スル生物學的作用モ亦複
雜ナルハ言フ俟タザル所ナリ。

1932年 Domagt ガ Protsil ヲ發見シテ化學治
療界ハ其ノ效果ノ顯著ナルニ驚キ、爾來各國ニ
於テ Sulfonamid ノ製劑相次デ出デ我國ニ於テ
モ現今ニ於テハ其ノ製劑ノ枚擧ニ遑ナシ。而シテ
1938年 R. Wawersig 氏ガ 111 例ノ患者ニ就キ
Arthigon 及ビ Diseptal ニヨル血液像ノ變化ヲ
實驗シ、前者ニ於テハ 54%、後者ニ於テハ 42%
ノ白血球增多ヲ證明シ、中村、郷田、尾上等ハ
Aktisol ニヨル健康家兎ノ血液像ノ時間的變化ヲ
研究シ、1時間後ヨリ著明ノ白血球增多症ヲ證明
シ、而シテ之ガ 100 分率ヲ見ルニ主トシテ偽性
Eosin 嗜好性多型核細胞ノ著増ト淋巴球ノ激減ト
ヲ示シ、而シテ本劑ノ治療ノ效果ハ其ノ殺菌力ノ
強大ナルト共ニ白血球増加ニヨル喰菌現象竝ニ抗
體發生ニ起因スルモノナラント云ヘリ。斯ク血液
像殊ニ白血球ニ對スル研究ハ 2-3 之ヲ見ルモ血
小板及ビ血液凝固ニ對スル實驗ハ寡聞ニシテ未ダ
之ヲ見ズ。由テ余ハ既述ノ Esophylaxin 及ビ
Dseptal 投與ニヨル家兎血小板ノ消長竝ニ血液凝
固作用ニ及ボス影響ヲ知ラント欲シ實驗ヲ行ヒシ
結果次ノ如キ成績ヲ得タルヲ以テココニ發表セン
トス。

第 2 章 實驗動物竝ニ實驗方法

實驗動物ハ總テ雄性成熟家兎 2 kg 内外ノ健康

ナルモノヲ用ヒ、食餌トシテ豆腐粕ヲ投與シ一定
期間余等ノ動物室ニ於テ飼育セシモノヲ使用シ實
驗前 24 時間竝ニ實驗中食餌ヲ投與セズ。而シテ
Esophylaxin ハ 2.5 cc pro Kilo ヲ徐々ニ耳靜脈
ニ注射シ後 1 時間毎ニ 5 時間迄血小板數竝ニ血液
凝固時間ヲ測定セリ。Diseptal ハ pro Kilo 0.1 g
ヲ經口ニ與ヘ後 1, 2 日ト血小板數竝ニ血液凝固
時間ヲ測定セリ。血小板測定ハ Fonio 氏法ニヨリ、
血液凝固時間ハ Boris Jegerow 氏法ニヨリタリ。

第 3 章 Esophylaxin ノ實驗的研究

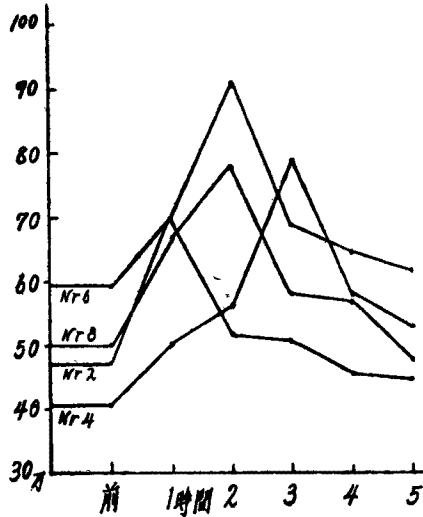
第 1 節 Esophylaxin 注射ニヨル正常家兎
血小板數ノ變動

既ニ緒言ニ於テ述ベタル如ク皮膚ト血小板トノ
間ニ密接ナ關係ノ存スル事ハ幾多先進ノ業績ニヨ
リテ明カナリ。然レドモ皮膚ヨリノ特殊物質即チ
片岡等ノ Hauthormon ニ因ル血小板ノ變化ニ就
キ檢索セル業績ハ未ダ尠シ。若シ果シテ Hautho-
rmon ニ因リ免疫體產生ニ重要ナル意義ヲ有スル
血小板ノ増加アリトセバ、皮膚 Esophylaxie 作
用ノ實證ノ一端ヲ闡明シ得ルト共ニ Esophylaxin
ガ片岡等ノ云フ如ク皮膚ヨリ分泌セラルル特殊物
質ナリトノ重要ヲ證明トモナリ得ルモノナリ。故
ニ余ハ Esophylaxin ヲ家兎ニ注射シ血小板數ノ
變動ヲ第 2 章ニ於テ述ベタル方法ニヨリ實驗ヲ行
ヘリ。今其ノ成績ヲ圖表ヲ以テ示セバ第 1 表及ビ
第 1 圖ノ如シ。即チ第 1 表ニヨリ想察スルニ全例

第 1 表 Esophylaxin 注射ニ因ル正常家兎血小板數ノ變動

家 兎 番 號	注 射 前		注射後 1 時間		注射後 2 時間		注射後 3 時間		注射後 4 時間		注射後 5 時間		血 小 板 增 加 率
	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	血 小 板	赤 血 球 單 位 萬	
1	533600	464	518400	480	516780	522	515100	505	508560	439	487830	483	-3%
2	473340	493	706560	512	517650	493	512530	479	463070	499	451800	502	49%
4	405840	534	504000	560	561600	520	793300	552	587400	534	535080	546	95%
5	485440	592	562000	562	729390	593	667590	561	604660	617	558720	582	50%
6	595760	544	701700	580	919560	622	689720	605	651240	603	623810	582	54%
7	443520	528	502460	518	548990	533	718820	558	562680	521	428000	535	62%
8	501840	492	670240	472	781440	528	582010	481	581240	517	482000	482	56%

第 1 圖



7頭ノ中 Nr. 1ヲ除ク他ノ6頭ハ悉ク注射後1時間ヨリ血小板數ノ増加ガ認めラレ、最高ニ達スル時間ハ注射後1時間ガ1頭(Nr. 2)2時間ガ3頭(Nr. 5, 6, 8)3時間ガ2頭(Nr. 4, 7)ニシテ以後漸次減少ヲ來シ5時間後ニ略ボ正常ニ歸レルモノ4頭(Nr. 2, 6, 7, 8)尙ホ輕度ノ増加状態ニアルモノ2頭(Nr. 4, 5)アリ。而シテ其ノ増加率ハ最低49%ヨリ最高95%ニ達セリ。即チ以上ノ實驗成績ヨリ Esophylaxin ガ著明ナル血小板増加作用ヲ有スルモノナル事ガ認めラル。赤血球數ハ Esophylaxin 注射ニヨリ著變ヲ示サズ(第1表及ビ第1圖参照)。

第2節 Esophylaxin 自身ノ血液凝固ニ及ボス影響

現今臨牀上使用セララル臟器製止血劑ノ試験管内(直接的)血液凝固促進作用ハ柏村ニ依レバ製劑ノ異ナルニ從ヒ著シキ動搖ヲ示シ、其ノ作用ニ強弱ノ差ハアレ、一樣ニ其ノ血液凝固促進アリト云ヒ、伊東モ此說ニ賛同セリ。乾ハ前2者ト趣ヲ異ニシ8種ノ臟器製劑中3種ニ於テ血液凝固促進作用ヲ認め、他ノ5種ニ於テハ凝固作用無キカ、又ハ却ツテ凝固阻止作用ヲ呈スト述ベタリ。而シテ

Esophylaxin ノ直接的血液凝固促進作用ハ足立ニ依レバ何等コレヲ認めズト云ヘリ。余モ亦 Esophylaxin ノ血液凝固作用ヲ觀察スルニ先立チ之ガ實驗ヲ行ヒシニ第2表ノ如キ結果ヲ得タリ

第2表 Esophylaxin 自身ノ血液凝固ニ及ボス影響

家兔番號	Esophylaxin		對 照	
	凝固開始	凝固完了	凝固開始	凝固完了
10	3'30"	10'15"	3'40"	10'30"
11	3'15"	10'	3'	10'
13	4'15"	11'	4'	11'15"
14	3'	9'45"	3'15"	10'

實驗方法ハ先ヅ Esophylaxin 0.5 ccヲ注射器ニ取り次デ耳靜脈ヨリ5cc迄血液ヲ取り手早ク混和シ此液ヲ Boris Jegorow 氏法ニヨリ凝固時間ヲ測定シ、對照トシテ生理的食鹽水ヲ使用セリ(第2表参照)。

第2表ニ於テ見ルガ如ク Esophylaxin 自身ノ血液凝固ニ何等影響ヲ及ボサザルモノノ如シ。

第3節 Esophylaxin 注射ノ血液凝固ニ及ボス影響

既述ノ如ク種々ナル臟器製止血劑ハ柏村、伊東等ノ實驗ニ依レバ夫レ自身血液凝固促進作用ヲ有スルヲ以テ、之ヲ生體內ニ輸送スレバ血液凝固ヲ促進スルハ當然ナリ。又乾ハ臟器製劑ノ一部ハ直接血液凝固促進作用アルモ、他ノ物ニハ促進作用ナキカ、或ハ却ツテ反對ニ遲延作用アリト雖モ、一度生體內ニ入レバ斯ル製劑ノ總テガ著明ナル血液凝固促進作用アル事ヲ實證セリ。足立ハ Esophylaxin モ亦直接血液凝固促進作用ナキモ之ヲ生體內ニ送レバ著明ナル凝固促進作用ヲ呈スト述ベタリ。

余ノ實驗ニ據レバ第3表ニ示ス如ク Esophylaxin 注射1時間後ハ全5例中凝固開始時間ニ於テハ3例ハ殆ド變化ナク、2例ハ僅ニ8, 7, 11, 8%ノ夫々短縮率ヲ見、凝固完了時間ハ3例ニ於

第 3 表 Esophylaxin 注射ノ血液凝固ニ及ボス影響

家 兔 番 號	注 射 前		注射後 1 時間		注射後 2 時間		注射後 3 時間		注射後 4 時間		注射後 5 時間	
	凝固開 始時間	凝固完 了時間	凝固開 始時間	凝固完 了時間	凝固開 始時間	凝固完 了時間	凝固開 始時間	凝固完 了時間	凝固開 始時間	凝固完 了時間	凝固開 始時間	凝固完 了時間
15	3'20" 100	11'25" 100	3'10" 95	11'35" 101.5	2'45" 82.5	9'45" 85.4	2'15" 67.5	8'30" 74.4	2'50" 85	10' 0" 87.6	3' 0" 90	10' 0" 87.6
16	4'30" 100	11'40" 100	4'35" 101.8	11'30" 98.6	4' 0" 88.8	10'20" 88.6	3'25" 75.9	8'20" 71.4	3'15" 72.2	8'35" 73.6	3'20" 74	9'30" 81.4
18	3'50" 100	10'30" 100	3'30" 91.3	8'50" 84.1	3'10" 82.6	9'10" 87.3	2'30" 69.6	8' 0" 76.2	3'10" 82.6	7' 0" 70.1	3' 0" 78.3	10'20" 98.4
19	4'50" 100	12'20" 100	4'40" 96.5	11' 0" 86.8	3'40" 76	10'20" 81.5	3' 0" 62	9' 0" 73	4'10" 86.2	10'50" 85.5	4'20" 89.6	11' 0" 86.8
20	2'50" 100	9'30" 100	2'30" 88.2	9'30" 100	2'20" 82.3	8'50" 93	2' 0" 70.7	7'30" 74	1'50" 64.7	7' 0" 73.7	2'20" 82.3	8'10" 86
平均率	100	100	94.6	94.2	82.4	87.2	69.1	73.8	78.2	78.1	82.8	87.2

テ變化ナク、2例ハ 13.2 及ビ 15.9%ノ短縮率ヲ見ル。2時間後ニ至レバ凝固開始時間及ビ完了時間共ニ全例ニ於テ短縮ヲ初メ、前者ニ於テハ最低 11.2%、最高 24.0%ノ短縮率ヲ示シ平均 17.6%ナリ。又後者ハ最低 7%、最高 18.5%ニテ平均 12.8%ノ短縮率ヲ見ル。3時間後ハ凝固開始時間ハ最低 24.1%、最高 38%ニシテ平均 30.9%ノ短縮率、完了時間ハ最低 23.8%、最高 27.6%、平均 26.2%ノ短縮率ヲ示シ、凝固開始、完了共ニ平均最高ノ短縮率ヲ示ス。4時間後ニ至レバ凝固開始時間ハ 13.8—35.3%平均 21.8%ノ短縮率ヲ呈シ、完了時間ハ 22.4—29.9%平均 21.9%ノ短縮率ヲ示ス。5時間後ニ至レバ凝固開始時間ハ 10—26%平均 17.2%ノ短縮率、凝固完了時間ハ 1例ハ略ボ變化ナキモ他ノ 4例ニ於テハ最低 12.4%、最高 18.6%平均 12.8%ノ短縮率ヲ示シ尙ホ血液凝固促進作用ノ持續セルヲ見ル(第 3 表参照)。

第 4 節 本章ノ總括並ニ考按

血小板ガ血液凝固作用ニ缺クカラザルニ要素ナル事ハ Bizzozero 以來既ニ明カナル所ナリ。而シテ血小板數ト血液凝固作用トノ相對的關係ニ就テハ未ダ定説ナキモノノ如ク、或ハ血小板數增加ト血液凝固促進ト相平行ストナス者、或ハ兩者ノ

間ニ何等一定ノ相互關係ヲ見出サズトナヘ者アリ。然レドモ、血小板ガ、血液凝固ノ原動力タル Thrombokinasase ヲ放出スルモノナルヲ以テセバ、血小板増加ハ血液凝固ヲ促進スベキニ大要素タル事モ言フ俟タザル所ナリ。而シテ以上ノ成績ヲ通覽スルニ Esophylaxin ハ血小板數ノ著明ナル増加、即チ最低 49%、最高 95%ノ増加率ヲ呈シ、注射 1 時間後ヨリ既ニ増加ヲ來シ始メ其ノ最高ニ達スルハ 2—3 時間後最モ多ク、以後時間ノ經過ト共ニ漸次減少シ其ノ半数以上ハ 5 時間後ニ於テ正常値ニ復歸スルガ如シ。

赤血球數ニ對シテハ Esophylaxin ハ著變ヲ與ヘズ。又 Esophylaxin ノ血液凝固促進作用ハ注射 2 時間後ヨリ初マリ 3—4 時間ニシテ最高ニ達シ以後漸次減弱スレドモ 5 時間後ニ至リテモ尙ホ血液凝固促進作用ノ持續セルヲ見ル。今本成績ヲ他ノ化學的一臟器製止血劑ト比較スルニ、乾ノ成績ニ據レバ 30分—1 時間ニシテ血液凝固促進作用最モ著明ニシテ 2—4 時間ニ至リ殆ド正常ニ復ス。又伊東ニ據レバ注射後 30'—1 時間ニシテ其ノ作用最モ強ク、2 時間後ニ至レバ殆ド消失スルモノナリト云ヘリ。而シテ今 Esophylaxin ノ血小板増加時間ト血液凝固促進時間トヲ比較考按スルニ

血液凝固促進作用ノ現レハ、血小板數增加ニオクルル事約1時間、又凝固促進作用ノ最モ強ク現ハルルハ血小板數ノ最高ニ達スル時間ヨリ遅クルル事約1時間ニシテ、血小板數ノ略ボ正常トナレル5時間後ニ於テモ尙ホ血液凝固作用ハ持續セラレキルヲ見ル。以上ノ事實ヨリ考察スル時 Esophylaxinニ因ル血液凝固促進作用ハ Esophylaxinニヨル血小板上昇作用ト一定ノ關係アルハ容易ニ首肯セララル所ナリ。

第4章 Diseptalノ實驗的研究

第1節 Diseptal 投與ニヨル正常家兎血小板數ノ變動

1932年 Domagtガ Prontsilヲ發見シテ以來 Sulfonamidノ製劑相次イデ出デ之等製劑ニ關スル幾多臨牀治験例或ハ血液像ニ關スル2-3實驗的研究業績ノ發表セラレタルヲ見ル。然レドモ之等製劑ノ血小板及ビ血液凝固作用ニ及ボス影響ニ關スル業績ハ寡聞ニシテ未ダ之ヲ見ズ。余ハ4(4'Aminobenzolsulfonamido)-benzolsulfon-dimethylamidノ化學組成ヲ有スル Diseptalニ就キ既述ノ實驗方法ニヨリ検討ヲ行ヒ、第4表ノ

第4表 Diseptal 投與ニ因ル家兎血小板數ノ變動

家兎番號	注射前		注射後1日		注射後2日		血小板增加率
	血小板	赤血球	血小板	赤血球	血小板	赤血球	
22	400300	467	460600	658	450560	512	15%
23	529000	529	502240	584	436800	546	-5%
24	444360	529	450120	682	479700	533	8%
26	532120	502	606300	705	500480	544	14%
27	577060	473	471960	621	485760	506	-17%

如キ成績ヲ得タリ。即チ表ニ於テ見ラルル如ク Diseptal 投與後第1日目ニ於テハ5例中1例ニ於テ約10萬即チ17%ノ血小板減少ヲ見ル以外他ノ4例ニ於テ殆ド變化ヲ見ズ。第2日目ニ於テハ5例中前記ノ1例ニ於テ約9萬ノ血小板減少ヲ示

ス外他ノ例ニ於テハ略ボ正常値ヲ示セリ。即チ以上ヨリ Diseptal 投與ハ血小板數ニ何等影響ヲ與ヘザルモノノ如ク思考サル。而シテココニ注意スベキハ赤血球ニシテ、Diseptal 投與後第1日目ニ於テハ5例中4例ニ於テ著明ナル増加ヲ示シ、其ノ大ナルモノハ200萬40%ヲ超ユルモノアリ。而シテ第2日目ニハ5例共略ボ正常値ニ復セリ。即チ Diseptal ハ赤血球ヲ一時的ニ増加サスモノノ如ク思惟ス(第4表參照)。

第2節 Diseptal 投與ノ血液凝固ニ及ボス影響

Diseptal 投與ニヨル血液凝固作用ヲ既述ノ方法ニヨリ時間的ニ實驗セシニ第5表ノ如キ結果ヲ

第5表 Diseptal 投與ノ血液凝固ニ及ボス影響

家兎番號	注射前		注射後1日		注射後2日	
	凝固開始時間	凝固完了時間	凝固開始時間	凝固完了時間	凝固開始時間	凝固完了時間
30	2'10"	9'45"	2'20"	10'	2'	10'15"
	100	100	107.7	102.6	92.3	105.6
31	2'40"	10'20"	2'20"	10'25"	2'25"	9'50"
	100	100	87.5	108	90.5	95.1
32	1'55"	10'20"	2'	10'	1'45"	10'35"
	100	100	104.3	96.8	91.3	102.4
33	3'15"	11'10"	3'	10'50"	3'20"	11'
	100	100	92.3	95.5	102.6	97

得タリ。即チ表ニ示ス如ク Diseptal 投與後第1日目ニ於テ血液凝固促進開始時間ハ4例中1例ニ於テ僅ニ12.5%ノ凝固促進率ヲ呈シ、他ノ3例ニ於テハ殆ド變化ナク、凝固完了時間ハ全4例ニ於テ變化ヲ見ズ。2日目ニ於テハ血液凝固開始及ビ完了時間共ニサシタル變化ヲ見ズ。以上ノ結果ヨリ Diseptal 投與ハ血液凝固促進作用ニ對シテハ何等影響ヲ及ボサザル如ク思考ス(第5表參照)。

第3節 本章ノ總括並ニ考按

以上ノ實驗成績ヲ通覽スルニ Diseptal 投與ノ結果血小板數ハ唯1例ニ於テ投與後第1日目ニ約10萬即チ17%ノ減少ヲ見ルノミニシテ、他ノ例

ニテハ何等變化ヲ見出シ難ク、第2日目ニ於テハ全例共ニ著變ヲ示サズ。即チ Disseptal 投與ニヨル血小板數ノ動搖ハ何等認メラザルガ如シ、唯赤血球ニ於テ Disseptal 投與後第1日目は著明ナル増加が見ラレ、即チ其ノ大ナルハ約200萬40%ヲ越スルモノアリ。然レドモ第2日目は至レバ全例共既ニ正常値ニ復ス。

Disseptal 投與ニヨル血液凝固作用ハ第1日目は於テ凝固開始時間ガ僅ニ12.5%ノ短縮率ヲ示セル外他ノ例ニ於テ殆ド變化ナク凝固完了時間ハ全例ニ於テ著變ヲ認メズ。第2日目は至レバ血液凝固開始及ビ完了時間共ニ何等變動ヲ認メ難シ。以上ヨリ考察スルニ血液凝固作用ハ Disseptal 投與ニヨリ何等影響ヲ受ケザルモノノ如ク思考サル。

第5章 結 論

余ハ以上ノ實驗成績ヨリ次ノ如キ結論ヲ下サン

文 獻

1) 足立中, 京城醫專紀要, 第7巻, 第1號2. 2) H. Löhe u. R. Wawersig, Derm. Wschr., Bd. 107, Nr. 37, S. 1081. 3) Handbuch d. allg. Haematol., Bd. I, 673. 4) 平岡彌之助, 京城醫專紀要, 第5巻, 338. 5) 石田保, 京城醫專紀要, 第2巻, 第12號., 第3巻, 第3, 7, 9號. 第4巻, 第1, 8號. 6) 伊藤祐清, 京城醫專紀要, 第1巻, 第2號, 63. 7) 乾義太郎, 京都府立醫雜, 第18巻, 第2號, 63. 8) 片岡八東, 京城醫專紀要, 第5巻, 第5號, 171. 9) 片岡, 足立, 京城醫專紀要, 第5巻, 第5號, 536, 548. 10) 金星換, 京城醫專紀要, 第5巻, 第10, 12號, 558. 11) Krueger u. Schultz, 坂井ニヨル. 12) 菊池義太郎, 醫學研究, 第8巻, 第12號, 995. 13) 柏村修,

ト欲ス。

1) Esophylaxin ハ著明ナル血小板増加作用ヲ有ス。

2) Esophylaxin ハ夫レ自身ハ血液凝固作用ニ對シ何等影響ヲ及ボサザルモ、一度體內ニ輸送セラレルヤ著明ナル血液凝固促進作用ヲ現ス。

3) Esophylaxin ノ呈スル血液凝固促進作用ハ Esophylaxin ノ有スル血小板上昇作用ニ負フ所大ナリト思惟ス。

4) Disseptal ハ血小板數ニ何等變化ヲ及ボサズ

5) Disseptal ハ血液凝固促進作用ニ阻止作用ニ何等影響ヲ及ボサズ。

6) Disseptal ハ一時的赤血球増加作用ヲ有ス。

撰筆スルニ當リ終始御懇篤ナル御指導ト御校閱ヲ賜リタル恩師根岸教授ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表ス。

熊本醫雜, 第8巻, 546. 14) Koopmann, Dtsch. med. Wschr. Nr. 9, S. 277, 1924. 15) Lampert, Dtsch. med. Wschr. II. Halbjahr. 1931. 16) 中村, 審田, 尾上, 耳鼻咽喉科臨床, 第33巻, 第5號, 410. 17) 大塚診三, 岡醫雜, 第41年, 第5號, 1131. 18) 大塚診三, 醫學中央雜誌, 第518巻, (昭和3年4月). 19) 坂井芳次郎, 岡醫雜, 第42巻, 1171. 20) 佐川豊, 名古屋醫雜, 第45巻, 第1號, 75, 85. 21) 篠崎憲吉, 岡醫雜, 第42年, 第5號, 191. 22) Stephan, 山本ニヨル. 23) 豊田冷次, 朝鮮醫雜, 第22巻, 第85號. 24) 山本宇平, 岡醫雜, 第42年, 第3號, 477. 25) 山家操, 京都府立醫雜, 第18巻, 第1號, 27.

Aus der Dermato-Urologischen Klinik der Med. Fakultät Okayama
(Vorstand: Prof. Dr. H. Negishi).

Ueber den Einfluss von Esophylaxin und Disseptal Auf Blutplättchen und Blutgerinnung.

Von

Toshio Ehara.

Eingegangen am 4 Mai 1939.

Verfasser untersuchte über den Einfluss von Esophylaxin und Diseptal auf Blutplättchen und Blutgerinnung. Das Resultat wird in folgender Weise kurz angegeben.

1) Das Blutplättchen erlitt 2-3 Stunden nach der intravenösen Injektion von 2,5cc pro Kilo Esophylaxin eine deutliche Zunahme, 3-4 Stunden nach der Injektion tritt eine allmählich auftretende abnahme ein und kehrte endlich nach der 5 Stunden fast zur Norm zurück.

2) Das Esophylaxin hatte in vitro keinen Einfluss auf die Blutgerinnung, aber wenn es in den Organismus eingebracht wurde, so zeigte sich eine deutliche Beschleunigung der Blutgerinnung.

3) Verfasser konnte keine Veränderung der Blutplättchenzahl und der Beschleunigung von Blutgerinnung bei der peroralen Anwendung von 0,1g pro Kilo Diseptal konstatieren, während es eine temporäre Zunahme der roten Blutzellen bewirkte. (Autoreferat).

110.

615.782 : 612.337 : 612.62

「ジントロパン」ノ家兔摘出滑平筋臓器ニ對スル作用

岡山醫科大學藥理學教室 (主任奥島教授)

醫學士 新本勇夫

[昭和 14 年 11 月 4 日受稿]

I. 緒言

藥物ノ化學的構造ト其ノ生理作用トノ間ニ重大ナル關係アルコトハ言フ俟タズ。從ツテ同族ノ藥物間ニ於テモ其ノ内ニ含マル原子族ヲ少シク異ニスルニ因リ、其ノ生理作用ニ顯著ナル差異ヲ呈スルコトハ甚ダ興味深キ問題ナリ。今「アトロピン」ニ就キ其ノ化學構造式ヲ檢スルニ「アトロピン」ハ「トロパ酸」ト「トロピン」トノ結合セル「エステル」ニシテ本藥物ハ周知ノ如ク中樞神經系ニ對シテハ先ヅ其ノ機能ヲ亢進シ次デ之ヲ麻痺セシメ、末梢ニハ主トシテ副交感神經ノ末端ヲ麻痺セシムル物質ナリ。而シテ「アトロピン」ノ有スル末梢作用ハ治療上諸種滑平筋臓器ノ痙攣、疼痛ニ對

スル痙攣、鎮痛劑トシテ阿片「アルカロイド」ト共ニ必須ノ藥劑ナルハ勿論、散瞳藥、分泌制限藥トシテ廣ク應用セラレツツアリ、從ツテ「アトロピン」ノ實驗的研究業績ハ古來ヨリ極メテ多ク殆ド餘ス所ナキガ如シ。又一方ニ於テハ「アトロピン」ノ類似體發見セラレ「スコポラミン」、「ヒヨスタミン」、「ホモアトロピン」等既ニ其ノ成果ヲ認メラレタルモノナリ。

「ジントロパン」ハ化學的ニ合成セラレタル物質ニシテ

